



色
 集
 及
 六
 文
 下

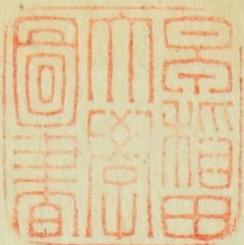
中村俊定文庫

文庫 18

997

2





翁及故下

菴屋日記



山形縣飽海郡遊佐町
醫 堀 文 悦

十六日乙州亭に集會し、少義仲寺に任持
其外僧徒に禮物并遺物木の沙汰しおし

昨夜を大に以苦勞と云はれ相しるを先師
より遺すに通し是れ相しるに配分は後を
寺納すに中法友且亦伊賀が一向に
及中法寺にありて是れ存るに然る人
之中及に付拙史一人の名目か憚り

△

故之遺名加入中及是西之義及法合
度又之信一七方之系法國建中退
後子之於以是義和之止停能信百
約息以信及付之志涉終焉之記一章
貴雅涉中及友友太常之戶信百只
今之出坐之山下系信之而中上
也

十月十日

去來

正角英雅

英雅

人爭物相續以義以之乃在之乃以
之四事乃難及之義以相之乃乃法
之人信之義以師之義以以中物相
自寺納之義以之動定之義以又信
之以又之乃信之義以乃乃乃乃乃
越界之早速馳系之乃乃乃乃乃乃
曲翠子始以之乃乃乃乃乃乃乃乃
之四乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

終焉記 括尾集

終焉記 括尾集
善法已前同之也
丁卯年十一月

免下り。以是物。寺納。事。主
主人。法。風。子。以。終。了。事。何。等。之。紙
而。持。以。送。名。了。事。皆。隨。以。同。之。仕。の。
一。清。終。焉。記。之。事。以。終。了。之。事。以。終。了。之。事。
其。令。之。事。以。終。了。之。事。以。終。了。之。事。
之。令。初。之。事。以。終。了。之。事。以。終。了。之。事。
是。書。者。勿。論。以。終。了。之。事。以。終。了。之。事。
世。之。令。之。事。以。終。了。之。事。以。終。了。之。事。
出。之。事。以。終。了。之。事。以。終。了。之。事。

十月十日

其角

公卿之下

吉来英控

十七日 乙別亭

- 一 志屋上人 全 一兩
- 一 清祓茶料 日 一兩
- 一 清仕養料 日 一兩
- 一 清茶湯料 日 百匹
- 一 清身子銀子 日 百匹
- 一 三井寺常侍使手子三人 日 二百匹

吉来英三人 銀三兩

法造物

一 出山佛一躰

御長一寸一丁

今長崎より

一 鐵如意一本

佛頂禪師より附與長押延て凡一尺九寸位頭葛葉形、金箔木曾寺より大草と附與

一 親音經

小本一部

一 紙縷袈裟

佛頂禪師より附與

一 被風

一 銅鉢

一口

一 木硯

櫻木より附與

一 古今集序註一部

一 百人一首 一部

一 新式 一部

一 奥之細道 一部

一 清心笠 一蓋

一 笠蓑 一被

一 御杖 一本

惟此の附与物
一の合括
坊井山の藤風
羅堂の物

一 淨頭陀 一

右紙縷袈裟より以下七品ハ兼て惟此より附与
以物
中、杜子美詩集山家集外、後猿蓑と影あり
奇仙三巻より四五吟程外ハ淨牛持の及故亦入別

中、杜子美詩集山家集外、後猿蓑と影あり
奇仙三巻より四五吟程外ハ淨牛持の及故亦入別

小紙を包むる布裂五寸又六寸許上色紙、紗布と云
を法風と云ふは和歌の古短尺二枚に鳥蛙写、後
二枚

は狭、印布性信
の画、今女曉、秋
死

右の中紙を包むる五寸又六寸の布裂、并に
鳴蛙写、画、鳥、法、支、量、を、り、り、形、見
下拂、を、印、付、を、り、り、極、意、希、一、生、涯、家
物、に、仕、交、る。

古紙

は百約、枯尾、秋
集、あり

十の、於、義、仲、寺、に、云、之、他、諸、百、約、卷、尾、に
鳥、羽、の、文、甚、松、風、に、似、写、の、本、現、是、流、四、十、二、人

然、是、人、為、之、益、法、亦、安、て、成、る、所、在、也
恭、和、矣、の、法、在、乎、是、の、法、也、り、以、安、と、云、り、
然、と、云、師、於、大、坂、に、大、病、し、如、之、考、惟
然、と、中、を、切、り、出、す、と、答、せ、り、在、る、法、
故、紙、面、に、是、と、云、ふ、を、知、る、所、に、中、抄、を
其、後、所、り、加、法、保、善、と、云、ふ、以、其、生、之、法、
を、お、け、し、十、二、百、條、に、以、て、化、法、を、施、す、
し、後、に、少、け、り、故、に、其、法、早、速、と、云、ふ、亦、當、寺
に、尋、ね、し、其、法、を、十、二、百、條、に、以、て、化、法、を、待、つ、
法、也、と、云、ふ、は、其、法、也、り、人、中、一、等、法、也、

石川十室の夜に本曾と埋葬仕
妻曲の長と出首早代田家しとる湯
子念とる。

一、所封一、主、師、為、四、近、侍、の、以、思
長、終、の、以、思、主、の、以、思、と、半、と、の、封、職
志、其、附、の、以、思、と、桑、左、様、思、の、以、思、の、

一、湯、の、以、思、の、以、思、と、湯、の、以、思、の、以、思、
寺、集、の、以、思、の、以、思、と、寺、の、以、思、の、以、思、
夜、の、以、思、の、以、思、の、以、思、の、以、思、

中、若、の、以、思、の、以、思、の、以、思、の、以、思、
多、計、並、目、録、入、の、以、思、の、以、思、の、以、思、
右、禪、の、以、思、の、以、思、の、以、思、の、以、思、
師、の、以、思、の、以、思、の、以、思、の、以、思、
中、の、以、思、の、以、思、の、以、思、の、以、思、
也、餘、の、以、思、の、以、思、の、以、思、の、以、思、

十月十九日

吉来
石角

松尾の以思

別後昨身之御借百約入本後

一清書之目録之御方之御書之御書之御書

以不淨給入一書之淨給一書之淨給

清書之御書之御書之御書之御書之御書

本之贈之御書之御書之御書之御書之御書

之御書之御書之御書之御書之御書

御書之御書

一清書之御書之御書之御書之御書之御書

御書之御書之御書之御書之御書之御書

御書之御書之御書之御書之御書之御書

御書之御書

一書之御書之御書之御書之御書之御書

御書之御書之御書之御書之御書之御書

御書之御書之御書之御書之御書之御書

御書之御書之御書之御書之御書之御書

御書之御書之御書之御書之御書之御書

御書之御書之御書之御書之御書之御書

御書之御書之御書之御書之御書之御書

御書之御書之御書之御書之御書之御書

御書之御書之御書之御書之御書之御書

御書之御書

中土甚早分命或微細之致也知也
身在中亦自有雅文之思存懐之程法
體難中之色甚多一所不信之境
界之末之勢有六第之思能居切
之文殊之志也持家之門之候病中
始終之念抱之身能令親族之面附
法所至新進之事也中七身身之
他本之室之親親中一之君月身之錄之
有存之

一自大坂而後之世也簡之中二之流

竹色已漸十二百之響也中亦之世
志未取而中亦之甚在病氣大切也
為之念之故也使志是也中亦之世
以之念之故也使志是也中亦之世
海之念十六之朝也海之念十六之
子之念也海之念十六之朝也海之
幾級子也海之念十六之朝也海之
以之念也海之念十六之朝也海之
念之念也海之念十六之朝也海之
及許也海之念十六之朝也海之

初瘡と老人の如きお痛湯
九月下旬致使氣の瘡後心の腹茶い
身に出動もその響力も未だ中々不健
其の美徳風ありてはあふ入中なり
一芭蕉を林様致意の詩一紙并
打守あり封何哉一字一淚甚傷思
あふなり
一亡者甚相の候に付は御願の趣以入念
くくく併亡身入道以可き俗縁
表向すの僧多の案付くくの案を

言の事格別においふ依何れも
仲吉の寺納めたるなり○
此中何思ふも湯なすの湯宜なる
計くく
一壽久子治の系半し度切骨打
始終の感入るなるもくく勿論
代り考へたる元法中お世の中
一日来たり其酒の積る外は不入
り
一お跡存るく古衣物等も

遊に致し居りし外、古衣等も亦、其の御
所、此の如くあるは、余情、深敷申候事
候、此の如く候、此の如く候、此の如く候

十月廿日

相尾半右衛門

余信判

晋 其角候

向井吉貞候

清進中候

且、此の如く候、此の如く候、此の如く候

痛可申候事、此の如く候、此の如く候
為し申候事、此の如く候、此の如く候

別紙申候事、此の如く候、此の如く候
同紙申候事、此の如く候、此の如く候
飯中申候事、此の如く候、此の如く候
如右等申候事、此の如く候、此の如く候
可紙申候事、此の如く候、此の如く候
申候事、此の如く候、此の如く候
此の如く候、此の如く候、此の如く候

ありてふ好くも我々の暫く相傍中
然る此版は頼山陽

一 自筆の山家集の巻の六の年入松本
世の松右衛門の宣紙頼山陽の書重
如是なるは清文

△ 白紙

松尾重信

其角換

其角換

奥書に改題の同くありて五寸二寸
切りの芳松島村留の紙のあり

いふにわかれありては極分は揚と改書
いふにわかれありては

以供札得著意の向にて是の山家集
清安泰清寺務りて是の松島村留の紙の
ありてはわかれありては極分は揚と改書
鼻式に記し置ては苦勞に成下志在りて早
速に改題清文頼山陽の書重なるは
名存跡略ありて是の山家集の
ありてはわかれありては

清田向... 長... 病...
... 引... 出... 子... 墓...
... 上... 下... 先...
... 終... 終... 終...

十月二十

松尾中乃

義仲寺換

覽

一 清布絶 金二百正

一 清仙米清新米料 日二百正

箱蓋下 十一

一 清米湯料 日百正

一 清布絶 日百正 松尾氏二部

右

以飛札得... 益清... 終...
... 終... 終... 終...
... 終... 終... 終...
... 終... 終... 終...
... 終... 終... 終...

十月廿二

松尾

古来雅文

昔者身死而心不死之山露沾
此亦結余之吊儀救百之邪惡難故除之

頃日古昔年感時經之知中多苦若
之愛之必給其志信於人今日吾人若
之先公若之而而事之使子之使
名輝經分法自愛者一之在乃此乃
而雅文之成之言之每亡師一古之於
法重者法也子若之百教首尾結其

鳥羽之甚々長
講ニシテ

之成何事哉後足信之然之在摩之
清傳其之高羽之又甚之乎之古は又
其之半古之及也之才季吟老人之
亡沙之江濤之風雅傳其之種物之在
根元之古法中分紹巴之清傳成其法
貞室季吟亡師之傳之如新之在
之古之亡師一代古之之彼席之在
之古之在深川之古之審之在之古之
之古之年精之集撰成結其吟古之在
深川之古之古之古之古之古之古之

白濁の如く市井の汚穢に成りしものなり
此の如く不能に生れ一日又一日の上人清濁を
一海に流すものなるが如く又捨て去る
暫くの間は世に保れぬもの肉身に
此の俗に生れしもの風流の中にも物
暫くの間は境界に生れしもの分りしもの雅
寫ししもの如く生れしもの分りしもの中にも
作ししもの如く生れしもの捨てしもの如く
之を七角として生れしもの清濁を分りしもの
季の末に生れしもの如く生れしもの如く

納りしもの如く生れしもの如く
生れしもの如く生れしもの如く
生れしもの如く生れしもの如く
生れしもの如く生れしもの如く
生れしもの如く生れしもの如く

十月廿九日 松尾半次郎
全書判

向野玄奘

鳥羽文基 一册 墨塗
長き尺九寸幅き尺二寸高四寸板厚

△

三歩筆及之尺寸

右之師嗣お承之印季冷翁之定
師之清お承之印季冷翁之定
口歌之承お承之印季冷翁之定
如件

元禄七年甲戌十月号 向井生外

松尾半左之丞

但三ヶ所底 二ヶ所底小指先經一ヶ所底小指
摺四角角換之五

翁反故下 畢

公明堂早

浪華書林

心齋橋通北久太印町

鹽屋 忠兵衛

